



表面は洋風、裏面は和風のデザインがあしらわれた扉。和室と洋室の境に用いることで、どちらにも違和感なく溶け込ませることができます
◀【裏】



【表】

▶ 建具の寸法に合わせてオーダーメイドできる柔軟性も専門店の強み



▲「襖や障子の枠には丈夫で長持ちのアルミがおすすめです」と石田さん。精巧なカッティングシートにより、見た目も「木」そのもの

◀祖父と父より受け継いだモノづくりへの情熱を胸に、一つひとつの仕事を向き合う石田さん

株式会社インダからのお知らせ!

2022年1～2月末まで、建具の修繕、交換等を10% OFFにて承らせていただきます。ご成約時に「広報わこうを見た」とお伝えください!

【株式会社インダ】

新倉5-8-5 ☎468-2088
営業時間/9:00～17:00
定休日/土・日・祝日

コロナ禍に負けず頑張る商店や事業所を紹介する新シリーズ『コロナに負けるな! 頑張る和光の仲間たち』。今回は、ドアや襖、障子など『建具』の製造・販売・修理等を専門で行う「株式会社インダ」のご紹介です。

大正生まれの初代が和光市で創業。当時はこの界限でも建具の専門業者はここだけだったとのこと。社長の石田和隆さんは、大好きだった祖父をこのように偲びます。「手先がとても器用な人で、幼かった私のオモチャをなんでも作ってくれました。それをとらで見てながら、モノづくりの楽しさや素晴らしさを学ばせてもらったような気がします」。

職人気質だった初代を受け継いだ2代目により法人化され、現在の礎を築いた株式会社インダ。その優れた技術は評判を呼び、今では市内近隣はおろか関東一円から依頼が舞い込むといえます。そんな建具の専門店ですが、一般家庭からの依頼にも応じていただけるのでしょうか――。

「もちろん大歓迎です。ドアや襖、障子といった建具は、経年による劣化が避けられません。『最近、開け閉めがしにくくなった』『キーキーと耳障りな音が気になる』という方は、ぜひお気軽にお声がけください。熟練の職人が必ず

やなんとかしてみせます!」。

「なんとかしてみせます」という自信の裏にあるのは、専門店ならではの対応力。建具を取り付ける際に規制品の寸法が合わない場合は、住まいに合わせてオーダーメイドすることも可能とのこと。費用に関しても予算の都合に応じて柔軟に対応してくれるといいます。

年末の大掃除で、建具の不具合に気づいた方も多いのでは?「ちょっとした調整で直るケースもあります」とのことですので、まずは専門家に相談してみたいかがでしょうか。最後に、このようなメッセージをいただきました。

「お客様の声に耳を傾けながら、思いやりのある仕事を心がけています。建具専門店には馴染みがない方も多いと思いますが、これを機に多くの方々とのお付き合いが生まれたら幸いです」。

社長の石田和隆さん▶



次回は、シール印刷やプリントグッズを扱う『有限会社 信用ラベル』です!



浅久保上町会自治会

会長 飯田 久夫

図 和光市自治会連合会事務局 ☎463-0104

浅久保上町会の地域は、和光市駅南口の丸山台1・2丁目の一部と中央1丁目の一部で、イトーヨーカドー・第三小学校周辺と県道を挟んで中央公民館周辺、そして昔は畑だった外環道側道東側の地域です。自治会としては非常に活動しやすい地域ではあります。

かつて昭和26年頃は200数十軒の会員数で、駅南口から外環脇と笹目通りの間の広域な一つの自治会でした。盆踊大会等が盛大に行われていたそうですが、様々な事情で昭和30年代後半に浅久保上町会・仲町会・浅久保町会の3つに分割されました。現在は隣接の9自治会で浅久保地区連合会を組織して、夏祭り・餅つき大会等を中心に活動しています。

浅久保上町会の現在の加入世帯は約60世帯で、その内30世帯はワンルームマンションのため実質30世帯です。そのため単体としての行事活動は難しく浅久保地区連合会としての行事(7月の夏祭り・12月の餅つき大会)を中心に活動しています。夏祭りでは浅久保上町会としてトウモロコシ販売や子供向けゲームなどを出店し他の地域の方々との交流を深めています。また、年3回のゴミゼロ(クリーン・オブ・和光)には毎回20世帯前後が参加し、地域の美化に取り組んでいます。今後は加入世帯の高齢化が進む中で、新たな世帯の自治会加入を促進することが課題となっています。



夏祭りの様子



餅つき大会の様子

おるご~る

No. 214

図 総務人権課 庶務・人権担当
☎424-9094

政治も男女共同参画で ―第49回衆院選に思う―

男女共同参画推進アドバイザー
西山 千恵子

去る10月31日の衆議院議員総選挙では女性当選者は45人、全当選者中1割に満たない9.7%で、前回2017年の衆院選のときの10.1%から比率を下げました。日本の国会議員(衆議院)に占める女性比率は世界的に見てもたいへん少なく、193か国中、165位という順位です(列国議会同盟2021年11月現在)。

ジェンダー平等(男女平等)の実現は国際的な「持続可能な開発目標(SDGs)」の一つですが、日本の進み具合は遅々たるものです。ダボス会議の主催で知られる「世界経済フォーラム」が発表した男女格差調査では、日本は世界156か国中120位でした。政治・経済分野での評価が特に低いため、順位を下げています。

こうした状況下、2018年5月、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が成立、公布されました。国・地方の選挙において、男女の候補

者数の均等化を目指すことや、議員活動と家庭生活との円滑・継続的な両立を旨とすることなどが盛り込まれた法律です。さらに今年6月には同法が改正・施行され、議員や候補者へのセクハラ・マタハラ防止対応や国・自治体の責務の強化が盛り込まれるなど前進がありました。

ただ上記のとおり、この法律が効果をあげているとは言えない状況です。多様性が求められている現在、国・地方議会も一方の性に偏ることなく、社会の多様性やバランスを反映した構成になることを期待します。なお、2020年春の和光市男女共同参画紙「おるごるNo.25」では「政治も『男女共同参画』!」と題して女性議員を取り巻く課題や、諸外国が導入している議席・候補者の割当て制などを取り上げています。

●市HPでも読めます。
ぜひご覧ください▶

